

## 平成 26 年度第 4 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

### 妙岐ノ鼻

「ヨシ原と多様な湿性植物」を実施しました。

開催日時：平成 26 年 5 月 24 日（土）9 時 00 分～15 時 30 分

開催場所：稲敷市 妙岐ノ鼻（浮島湿原）

参加者：29 名

今回の観察会は約 50ha の貴重なヨシ原が残る妙岐ノ鼻を中心に実施しました。

当日は絶好の観察日和で、木道はカラカラに乾いていて、長靴を履いてきた方は残念がっていました。講師は第 1 回霞ヶ浦自然観察会に続き福田先生です。

妙岐ノ鼻では貴重な湿性植物をたくさん見ることができます。妙岐ノ鼻の水辺デッキまでの道のりを歩きましたが、妙岐ノ鼻全体が見える場所ではヨシしか見えなかったのに、ヨシ原に入ると足元に数え切れないほど見られます。これらの植物の中には、ヨシを支えとして生えているものも多くあります。ヨシは背の高い植物なので、中に入ると延々とヨシ原が続いている印象を受けます。また、ヨシの先では縄張り争いをする鳥が鳴いていました。耳を澄ますと、何種類もの鳴き声が聞こえ、目だけでなく耳でも楽しむことができます。今日は残念ながら園芸種原種である、ノハナショウブは見られませんでした。ハナムグラの可憐な小さな白い花を楽しむことができました。

湿原の先まで足を伸ばすと、水際に生えるヨシも観察できます。ヨシは水中の窒素、リンなどの栄養を吸収しますが、そのままでは、枯れたヨシが湖の中で分解され、折角吸収した窒素、リンがまた湖に戻ってしまいます。そのため、水質浄化の機能を発揮するためには夏にヨシを刈り取り、湖外へ運び出す必要があることなど、環境保全の難しさを実感しました。

午後は和田岬に移動し、貴重なクロマツの林や、昔は霞ヶ浦が海だったことを物語るハマエンドウ、ハマヒルガオなどの海跡植物を観察しました。

植物と霞ヶ浦の関係、植物から学ぶ霞ヶ浦の成り立ちなど、様々な角度から学ぶことができました。

参加者の皆さんは、何回観察会に参加しても、調べきれない数の植物を発見するそうです。また、今回は、学校の科学部に所属する中学生 4 人が参加してくれました。植物の観察だけでなく、生き物や霞ヶ浦の水に実際に触れたことがとても楽しかったようです。観察をとおして、霞ヶ浦に興味を持ち、水質強化の活動につながる活動への参加者が増えることを期待したいです。

参加者の皆さん、福田先生、パートナーの皆さん、ありがとうございました。

次回の霞ヶ浦自然観察会は、霞ヶ浦と森林の多面的機能の関係をテーマに、水郷県民の森で、6 月 15 日（日）に里山の植物や生き物を観察する予定です。ぜひ御参加下さい。

環境活動推進課 福井正人  
上野夏美



福田先生から観察のポイントを学びます。



散策路の観察風景



妙岐ノ鼻遠景



ハナムグラ（アカネ科）



波により株立ちに移行中のヨシ





カラカラに乾いた木道



ハマエンドウ (マメ科)



ハマヒルガオ (ヒルガオ科)



ミズヒマワリ, 特定外来生物です。



チャンネルキャットフィッシュが釣れた瞬間

今回観察した植物は合計 132 種 (およそ) でした。